

納所小だより

第1回学校評価 特別号

令和元年10月吉日
京都市立 納所 小学校
校長 森川 寿代
TEL 075-631-2032

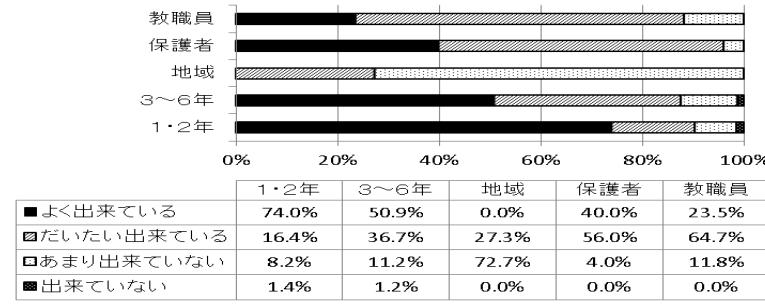
学校評価へのご協力ありがとうございました。集計結果より、児童の意識・実態、そして、保護者や地域の方のおもいや考え方、教職員の認識や願いを考察し、児童のよりよい成長へつなげていきたいと考えます。

※1) 地域アンケートに関しては、児童の様子を見ていた結果となります。

※2) 保護者・教職員アンケートに関しては、児童への働きかけにおける結果となります。

※3) アンケート結果を、小数第二位を四捨五入して小数第一位までの表記させていただいているため、合計数値が100%にならない項目もございます。よろしくお願ひ致します。

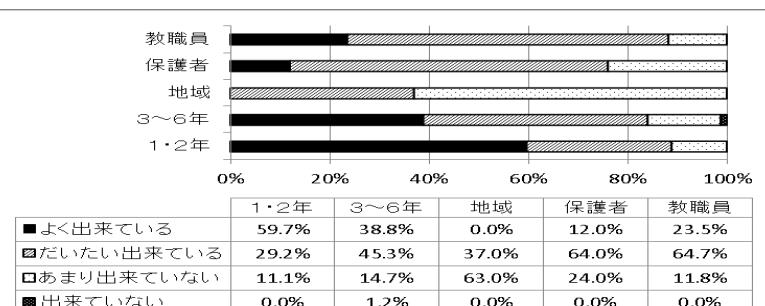
【1】自分からあいさつしている。】



昨年度よりも多くの割合の児童が、「出来ている」と回答しています。同様に保護者、教職員の割合も高くなっています。校内では進んで挨拶する姿が多く見られるようになっています。

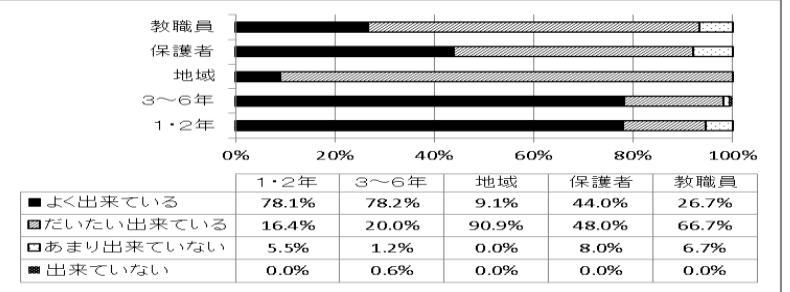
しかしながら、地域の回答結果からもわかるように、昨年度よりも「だいたい出来ている」の割合が低くなっています。地域の方に挨拶するよう指導をしていますが、引き続き挨拶への働きかけを徹底していくとともに、教職員自らが姿勢で見せていくことが必要だと考えます。地域の皆様も今後も温かいお声かけをよろしくお願ひ致します。

【2】ことばづかいに気を付けている。】



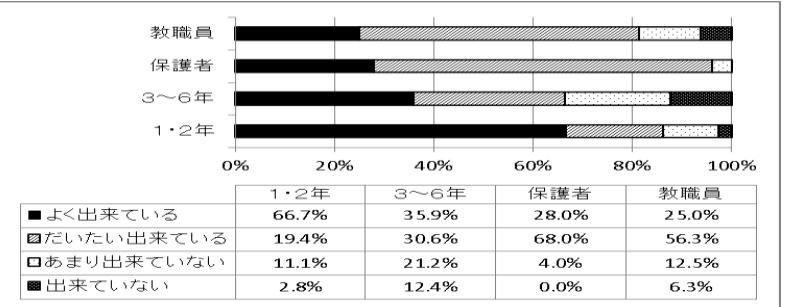
児童、保護者、教職員ともに、「出来ている」という割合が、昨年度に比べて高くなっています。校内において、ことばづかいに気を付ける意識が高まっているのではないかと考えます。しかし、地域の方からの回答結果は昨年度と変わっていません。引き続き、道徳科の学習などでことばづかいについて考えることを通して、常に意識できるようにしていきたいと思います。私たち大人も良い手本となるようにしたいと考えます。

【3】友だちを大切にし、仲良くしている。】



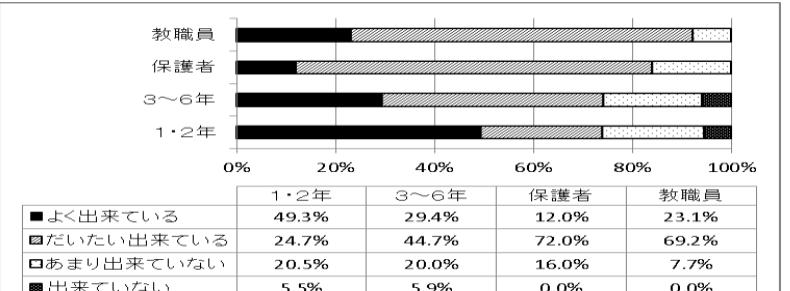
昨年度に比べ、高学年の「よく出来ている」の割合が高くなっています。高学年は、1学期に行われた宿泊学習などを通じて、仲間の大切さに気付き、よりよい友人関係を構築していくのではないかと考えます。しかしながら、「出来ていない」という児童はほとんどなくなってしまったものの、「あまり出来ていない」という保護者の割合は高くなっています。学級や学年での諸活動を中心に、友人関係作りを推し進めていくとともに、保護者とも密に連絡を取り合っていきたいと思います。

【4】困ったことがあれば、先生に相談している。】



昨年度に比べ、3～6年生の「出来ていない」の割合と教職員の「出来ていない」の割合が高くなっています。何か困った時に気軽に相談できるよう、日頃から、何でも話せるような関係を構築していくことが必要だと考えます。

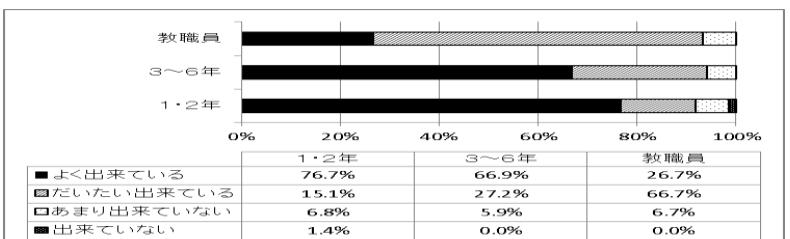
【5】忘れ物なく、学習の準備ができている。】



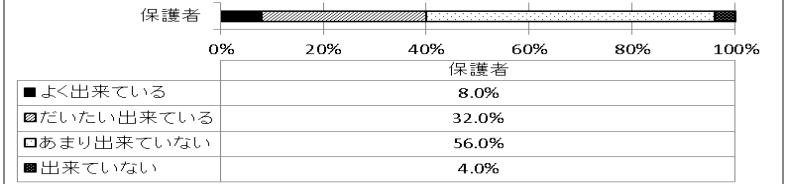
昨年度に比べ、1・2年生の「(あまり) 出来ていない」の割合が高くなっています。また、3～6年においても4分の1の児童が「(あまり) 出来ていない」と答えています。

学習の準備をする習慣は、低学年のうちに身に付けておくべきだと考えます。自分のことは自分でするという意識の向上を促す指導の徹底を努めるとともに、保護者の協力ををお願いしてまいりたいと思います。

【6】係や掃除・給食当番の仕事を最後までできている。】

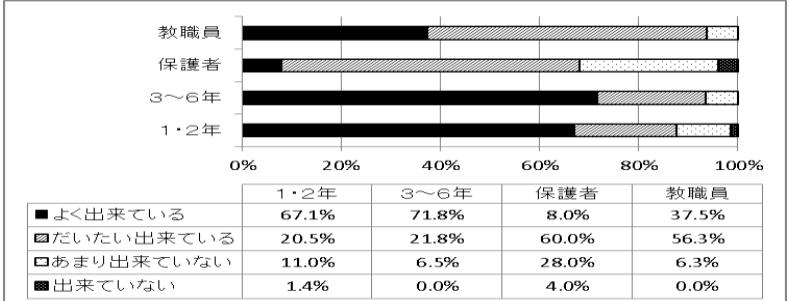


【掃除や片付けの習慣が定着するように役割を決めている】



昨年度に比べ、全体的な落ち込みが見られます。掃除に取り組む様子を見ていると、話しをしてしたり、中途半端に終わっていたりしています。当番活動や清掃活動の大切さも考えさせていきたいと思います。目標をもって掃除に取り組めるよう、よりよい工夫が必要だと考えます。

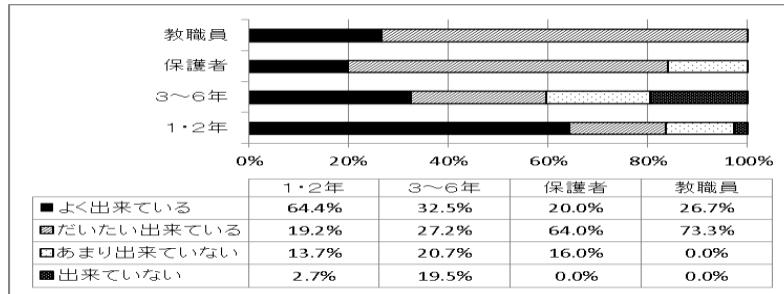
【7】はきものは、そろえている。】



昨年度と比べ、保護者の「出来ている」の割合が高くなっています。家庭でも声かけをしてくださっていることがわかります。「はきものをそろえると心もそろう」という言葉があります。校内の様子を見てみると、高学年になるほどトイレのスリッパもそろえることができています。高学年の姿を低学年も見習えるようにしたいと考えます。



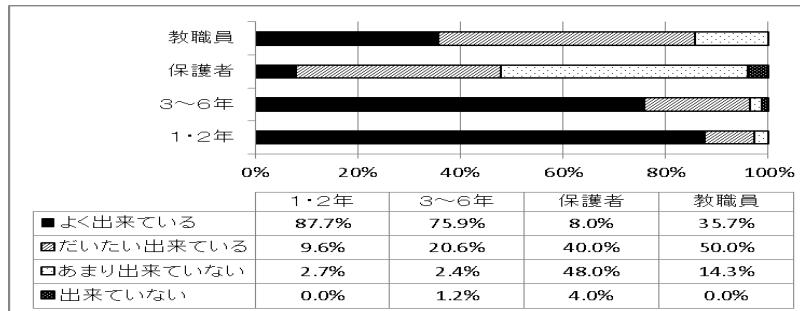
【8 自分のよいところを言える。】



昨年度と同様、学年が上がるにつれて『自分のよいところを言える』児童の割合が低くなっています。学級・学年での取組を中心に学校行事や委員会活動などの教育活動を通して、児童の良さを認め、十分に発揮できるよう取り組む必要があると考えます。

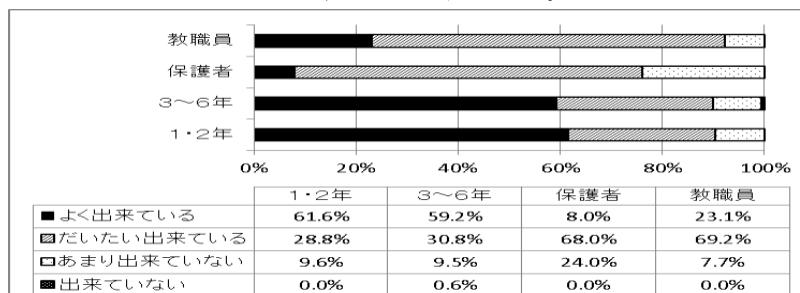
今後も、家庭・地域・学校において児童の良さを認めていくことを大切にしていきます。

【9 災害の時の命の守り方を知っている。】



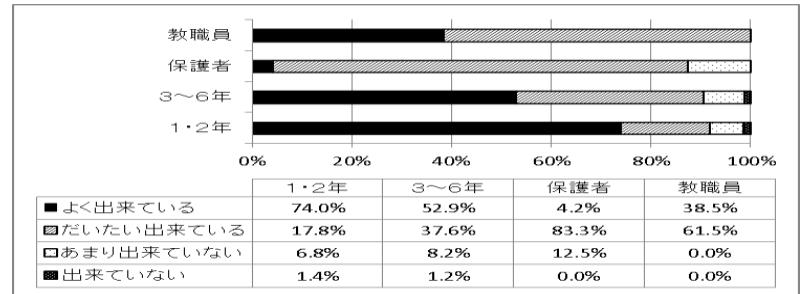
地震や台風などによる大雨を経験する中で、避難訓練への意識も高まっていることが回答結果から伺えます。しかし、家庭において災害についての話をされていない割合は高くなっています。学校でも児童への指導を引き続き徹底してまいりますが、ご家庭でも災害について子どもたちと話し合ってくださいますよう、よろしくお願ひします。

【10 授業がよく分かる。】



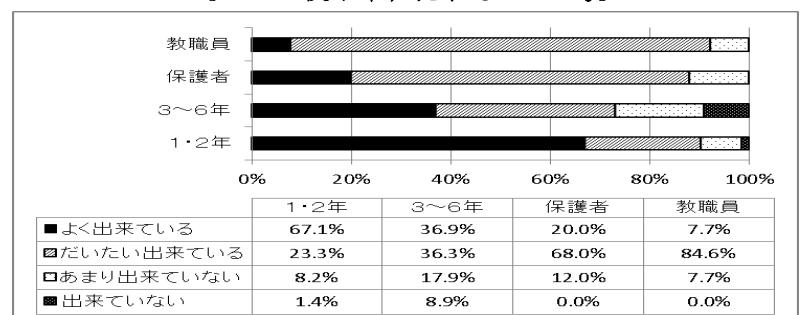
「出来ていない」の割合がほぼ0%になりました。算数科を軸に置きながら、学校として授業の流れを統一し授業改善に努めてきた結果であると考えます。しかしながら、依然として「あまり出来ていない」という児童が1割程度います。引き続き、児童の学習状況を適切に把握し、基礎的・基本的な学力の定着を目指して取り組んでいく必要があります。

【11 授業中、話をしっかり聞いている。】



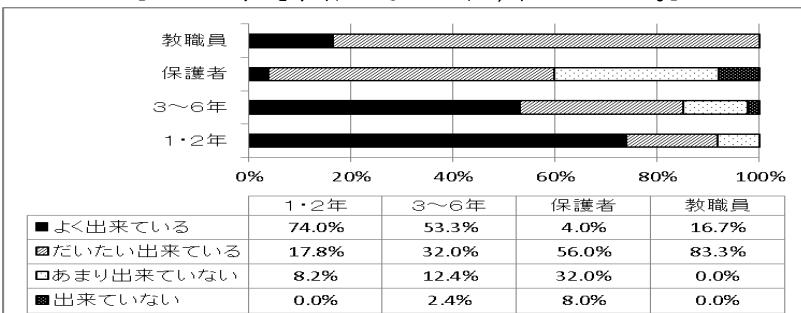
昨年度より児童の「(あまり)出来ていない」の割合が高くなっている一方、教師の「出来ていない」の割合は低くなっています。児童と教師の意識のズレが見られます。授業中の児童の様子をしっかりと把握することが今後の課題であると考えます。

【12 授業中、発表している。】



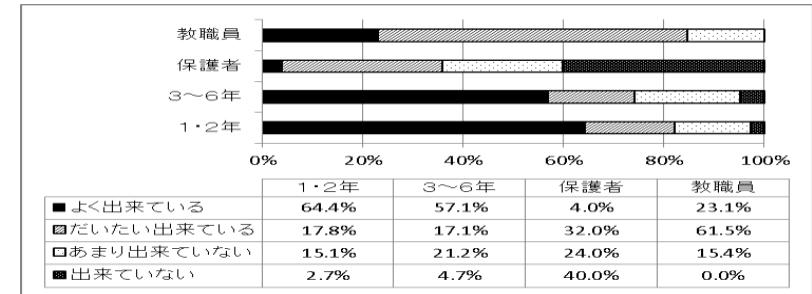
発表に関しては、学年が上がるに伴い「出来ていない」割合が高くなっています。しかしながら、教職員の回答結果から授業中の発問への工夫を意識する姿が見られます。自分のおもいや考えを表現しやすい学級集団づくりに努めるとともに、校内における授業研修会などで、お互いの授業を見合い、発問の仕方や内容について検討していく必要があると考えます。

【13 家庭学習に進んで取り組んでいる。】



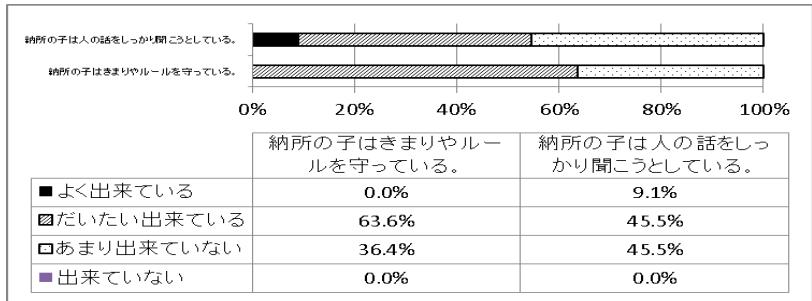
昨年度に比べ児童の回答において全体的な落ち込みが見られます。今年度は保護者の質問の中に「家庭での学習時間を決めるなどして」という具体例を入れました。家庭学習について学年だよりや懇談会で具体的に啓発していくとともに、児童が主体的に学習する態度を、家庭と協力しながら養っていきたいと思います。

【14 本をよく読んでいる。】



おはよう読書の時間に読書をする習慣は、教職員の声かけもあり定着してきました。しかしながら、昨年度より保護者の回答の大変な落ち込みが見られます。図書ボランティアによる読み聞かせや学校図書館の活用などの取り組みを、積極的に発信していきたいと思います。

【地域の方の回答から】



地域におけるルールへの向き合い方においては、昨年度と比べて落ち込みが見られました。交通のルールや公園などで遊ぶときのルールなど、地域には安全に関するルールがたくさんあります。安全指導の徹底が必要だと考えます。

また、話を聞く姿勢においては「だいたい出来ている」の割合が大幅に高くなりました。放課後まなび教室でかかわってくださっている地域の方がたくさんおられます。子どもたちの話を聞く姿勢の改善が見られますが、まだまだ「あまり出来ていない」の割合は高いままなので、引き続き指導の徹底を行っていく必要があると考えます。

今後も、児童・地域・保護者の皆様と一緒にコミュニケーションを図り、開かれた学校づくりをしていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

